

|             |                                                                                                                  |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 氏名          | 難 波 宏 文                                                                                                          |
| 学 位 の 種 類   | 医 学 博 士                                                                                                          |
| 学 位 授 与 番 号 | 博 乙 第 1901 号                                                                                                     |
| 学位授与の日付     | 昭和 63 年 6 月 30 日                                                                                                 |
| 学位授与の要件     | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）                                                                                     |
| 学 位 論 文 題 目 | Björk-Shiley 弁による人工弁置換術後遠隔期の人工弁血栓症及び人工弁最大開放角制限例に対する Urokinase 療法<br>第 1 編 臨床所見と人工弁最大開放角<br>第 2 編 心エコー図ドプラー法による検討 |
| 論 文 審 査 委 員 | 教授 寺本 滋      教授 原岡昭一      教授 小坂二度見                                                                               |

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Björk-Shiley 弁による人工弁置換術後遠隔期に、臨床所見より人工弁血栓症と診断された症例と、Cineradiographyによる人工弁の最大開放角が50度未満であった症例に対してUrokinaseによる血栓溶解療法を施行し、人工弁最大開放角と臨床症状の変化及び心エコー図ドプラー法による所見を対比検討した。

第 1 編では、36例63件に対してUrokinase療法を行い、人工弁最大開放角、心拍数、心胸比に有意の改善を認めた。人工弁血栓症に対するUrokinase療法は、むしろ無症状期の方がより効果的で、根治的と考えられた。この様な無症状期の血栓弁を早期に発見するためには、人工弁音異常の発見と人工弁開放角の定期的な測定が有効であると考えられた。

第 2 編では、Urokinase投与前後に心エコー図ドプラー法検査の施行できた症例 9 例 10 件を対象とした。Urokinase投与前後で peak velocity の低下, peak pressure gradient の低下, pressure half time の短縮, mean diastolic gradient の低下, effective valve area の増加が認められた。以上により Björk-Shiley 弁血栓症にたいする Urokinase 血栓溶解療法は、有効と考えられた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は心臓外科領域における人工弁置換に関する臨床的研究であるが、Björk-Shiley 弁置換後遠隔期において、人工弁血栓症および人工弁最大開放角制限例に対して Urokinase 療法を施し認めるべき効果を挙げたものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。